

## 第4回仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会 主なご意見

### 計画全体について・その他

- ① 世界から見た時の仙台という視点がもう少し積極的に欲しい。仙台にしかないというようなものがどのぐらい文化で出せるかというのは重要だと思う。ニューヨークやロンドンのような超巨大都市ではなくても発信できるのが文化のいいところで、仙台は十分そのポテンシャルは持っているはずだと思っている。例えば、新たに整備する複合施設には災害文化の創造拠点として中心部震災メモリアル拠点を設ける構想があるが、この震災メモリアル拠点は東北の被災地だからこそできるもので、仙台市外から、あるいは世界からも人が来るようなものに十分なり得る可能性がある。世界から見たとき、あるいは仙台市外から仙台に来てみたいなど、そう思わせるような意味を持つと思う。
- ② 国際的な観点がもう少しあってもよいのではないか。内なる国際化という多文化共生的観点も含め、これから文化観光、経済と繋がる分野でのコンテンツ産業において、国際競争力が問われている時代においては、例えば、姉妹都市などの文化財団や文化団体との国際共同制作的な事業など、色々なやり方が考えられると思う。
- ③ 仙台国際音楽コンクールでは、実際に各コンテストが自分の国に戻ってから、コンクールの良かった点について発信をしているという事実がある。国際的なイベントや文化芸術のコンテンツが国際的な役割を果たすものになり得るということ、それは、仙台に来て、その後それぞれの国に持ち帰ったものが、世界に広がっていくという、発信につながるということだと思うので、こうした国際的な文化芸術の取組みが、施策の展開の中に盛り込まれていることは重要と思う。
- ④ 全体的に、例えば音楽、演劇、歴史といった分野別の枠組みの中にとらわれた感じの事業形態の展開というイメージを持った。仙台市として文化芸術の施策を展開するときに、バージョンアップの考え方が入った方が良いと思う。今、分野横断的に、例えば音楽と現代アート、あるいは伝統芸能と現代アート等、分野横断的に様々なプロジェクトが展開されていて、そこから刺激的な作品やプロジェクトが生まれる世の中になってきていると思う。また同時に、文化芸術は試行錯誤のプロセスというのが重要。今後は、そうした「試行」という視点も取り入れていただきたい。
- ⑤ せんだいメディアテークは建築の世界においても大変画期的な建物で、建築の勉強をしている、あるいは建築の仕事をしている、デザインに関心のある人であれば、皆この名前を知っている。また日本に行ったことがない人も仙台に行ったことがない人も知っていて、仙台にしかなく、それだけ世界に大変大きなインパクトを与えた施設である。建物に関しては文化事業の予算だけではどうにもならないと思うが、そうした個性的な文化施設がこれからもできて欲しいと思っている。
- ⑥ 市民活動では、歴史から学ぶという観点から、過去の取り組み、国の施策や仙台市の動きをよく取り上げることがある。仙台市の文化施策に関係する年表のようなもの、施設の設置や、取り組みの裏付けになる法律の変遷、仙台市独自で取り組んで、現在にも継承されて

いる、あるいは震災やコロナ禍により新しい動きとして生まれたことなど、網羅するのは難しいと思うが、本計画に紐づき歴史を学べたり、知るきっかけになったりするような情報がまとまっていたら良いのではないかと思った。5年の計画のところだけでなく、徐々に更新をして情報が充実されるような、そんな取組みがあっても良いのではないかと思った。

## 基本理念・各施策と取組みについて

- ①基本理念について、「本市は年齢や障害の有無、国籍等に関わらず、あらゆる市民に文化芸術を享受する機会や自由に創造する機会がひらかれることを目指します」という部分が、重要なポイントだと思った。基本理念には多様な個性が「輝く」とあるが、改めて全体を読むと、本計画が、人を主体に、文化的な活動をすることや、人の営みとしての文化の部分を強く出しているのも、1個1個が強く輝くというよりは、多様な個性や、生き方を「認め合う」という言葉の方がニュアンスとしては重要なのではないかと思った。
- ②重点プロジェクト①「文化芸術の担い手を育む協働プロジェクト」で「育成」と「活動環境の向上」という言葉が入っているのは重要だと思った。また、「市内を拠点に活動する活動主体同士の意見交換の場を構築する、声を拾う」とあるが、自分たちの活動を改善していくような「学び合いの場を作る」といったところまで踏み込んだ書き方にも良いのではないかと思った。
- ③重点プロジェクト③「杜の都の新たなシンボルとなる文化拠点整備プロジェクト」で、主な取組みにハード面とソフト面と書かれているが、その他に文化拠点で働く人材についての視点を盛り込むことも必要ではないかと感じた。仙台出身、あるいは仙台でアートの体験をした人たちが、世界で活躍して仙台に帰ってきたときに、この拠点が、そうした一人ひとりの活動に刺激を与えてくれるような場所になってほしいと思う。将来的には、発信の場であると同時に、還元の場としての文化拠点になってほしい。
- ④基本施策②の主な取組みの中で、「障害福祉団体への助成」と限定的に書かれていることが気になる。障害福祉団体ではない団体も、障害のある人たちの芸術文化に寄与することを行っている例がある。限定的な書き方になると誤解を招くところもあるので、言葉を少し変えて、「各種団体」などでも良いのではないか。
- ⑤基本施策④「発展的な文化芸術活動の推進」の「発展的な」という言葉の意味がとらえにくいので、別の言葉に変えた方がよいと思った。多様な分野と連携する、多様な分野でも文化の力を発揮していく、というように、読んだときにイメージがわくような言葉に変えた方が良いのではないかと思った。
- ⑥基本施策④「発展的な文化芸術活動の推進」において、他の自治体の文化芸術の範囲には入っていない「災害文化」をこの仙台では文化芸術活動の中に取り込んでいこうとしていること、これは非常に積極的で重い試みであり、高く評価したいと思う。
- ⑦「学校教育」という言葉について、「学校教育」という限定的な言葉ではない方が、仙台の子どもたちへの支援やこれからの課題に対して、文化芸術活動を通じて人々が環境形成していく方向性に合っていると思う。
- ⑧仙台市は奥羽山脈から仙台湾の海沿いまで広がりが、都市部だけではなく、沿岸部にも文化芸術活動の目を光らせているという点が良いと思った。一方でその視点からすると山間部

が抜けているのではないかと思う。基本施策⑦の民俗芸能については、担う地域があつて、担う人がいるという、「地域」というものが密着している。例えば、秋保の田植え踊は日本で唯一、国指定の重要無形民俗文化財になっているもので、基本施策⑦の民俗芸能等の継承・普及啓発だけにとどまらない形で広げることができないだろうかと思った。子どもたちを交えた形で基本施策⑤、また昔の形をきちんと届けるという基本施策⑧など、色々な形が想定できるのではないかと思う。

- ⑨今まで何となくスローガンとして「楽都」「劇都」という言葉が使われていたのが、今回の計画の中に盛り込まれたということに関して、非常に価値を感じている。
- ⑩今後への期待だが、目指す姿の1つ目に「あらゆる人に参加機会がひらかれる」、そして2つ目に「多様な文化芸術活動が展開される」としている以上、今後の視覚芸術のあり方についても、充実を期待したいと思う。
- ⑪目指す姿1～5を横断する施策の主な取組み、「これからの文化芸術を支える仕組みの構築」はとても重要だと思う。特に「活動環境の向上」については、公的な資金だけではなく、入場料など、直接鑑賞してくれる、活動を一緒にしてくれる方々からの費用の回収だけではなく、仙台の企業はもちろん、市民の方々からの様々な支援も含め、色々な形で必要な資源を調達できるような活動環境の向上を考えられるとよいと思う。
- ⑫目指す姿1～5を横断する施策の主な取組み、「効果的な情報発信の推進」について、情報の一元化だけではなく、今あるものにうまく埋め込むような多面的な展開もまた、全体のアクセス拡大という点に繋がるのではないかと思う。多元化プラス一元化が必要だと思う。

## 計画の推進について

- ①第5章「計画の推進」が肝で、ここの実効性が大事だと思う。PDCAサイクルをしっかりと行える体制について、ここに書いてある通り推進していただきたい。
- ②庁内での推進会議については実効性があるものをぜひお願いしたいと思う。また、関係団体、外郭団体との連携、これも非常に重要。市民や文化芸術団体、アーティストの協働、これを具体的にどのような形で行っていくのかということは、ぜひ現場の方々のご意見も聞きながら、様々なご意見が上手く反映されるような形で、作っていただきたいと思う。
- ③進捗状況の管理の観点はパブリックマネジメントとして非常に重要なプロセスではあるが、管理しすぎない程度にお願いしたい。文化芸術というのは何らかの余白、はみ出るもの、それから予想がつかないもの、そういったものがたくさんある。全体的には、そういった余白を持つ姿勢を大切にしてほしいと思う。
- ④全体の計画が幅広になって、今後、例えばワークショップや現代アートプロジェクト、対話を重視した哲学カフェ、さらに歴史体験、自然体験というように芸術文化の幅を広くとらえたときに、「鑑賞」という現状の言葉でアンケート調査をとって、そのまま踏襲してしまうと、せっかく計画に反映した、幅広い芸術文化に接した市民の変化をしっかりとらえられないのではないかと思う。今から新たに生まれ変わっていく仙台の文化芸術のその幅を示すためには、市民が「鑑賞」「参加」したという意味で、しっかりと計画の現状を反映した指標の取り方を検討していただきたい。